

2026 年度「書物との出会い（口）」（女と男）リーディングリスト

*各項目に含まれる内容 (1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 0~3まで (数が大きいほど難易度が高い) / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) 長谷川真理子 (1999) 『オスの戦略メスの戦略 (NHK ライブラリー)』日本放送出版協会、絶版、ISBN: 978-4140841044
- (2) 学問領域 : 進化生態学、行動生態学、進化心理学
- (3) キーワード : 進化、有性生殖と無性生殖、自然選択と性選択
- (4) 難易度 1
- (5) 性は繁殖のためにあると誰しも思いがちであるが、二分裂して増える細菌のように性なしで繁殖する生物がいる。そのような祖先型からどのようにして、また何のために性が生じ、雄と雌に二極化し、それが男と女になったのか、進化生物学の見地からこの本は教えてくれます。
- (6) 推薦者 : 安井行雄 (農学部)

- (1) 長谷川寿一・長谷川真理子 (2022) 『進化と人間行動』(第2版) 東京大学出版会、ISBN: 9784130622301
- (2) 学問領域 : 進化生態学、霊長類学、人類学、進化心理学
- (3) キーワード : 人間性の起源、人類の進化
- (4) 難易度 3
- (5) 進化生物学の基礎知識から説き起こし、人間性とは何か、どのようにして動物から人間は生まれたのかを解説する「進化心理学」の代表的教科書
- (6) 推薦者 : 安井行雄 (農学部)

- (1) 長谷川真理子 (2023) 『進化的人間考』東京大学出版会、ISBN: 9784130639552
- (2) 学問領域 : 進化生態学、霊長類学、人類学、進化心理学
- (3) キーワード : 人間性の起源、人類の進化
- (4) 難易度 2
- (5) 進化に興味を持った人に、最初に読んでほしい本。ヒトに固有な特徴や性差について進化という軸を通して検討し、なぜ言語や文化を持つのか、ヒトの進化環境がどんなものだったかなどについて、領域横断的に考察する。第一人者が明晰かつ親しみやすい語り口で、進化という視点から人間の本性に迫る。
- (6) 推薦者 : 安井行雄 (農学部)

- (1) 長谷川真理子 (2009) 『動物の生存戦略 —行動から探る生き物の不思議—』左右社、ISBN: 978-4903500119 /ebook
- (2) 学問領域：動物行動学、進化生態学、行動生態学
- (3) キーワード：進化、適応、自然選択、性選択
- (4) 難易度 1
- (5) 動物の行動や習性には彼らが生き残りを賭けた競争の中で進化させてきた適応戦略がみられる。進化生物学の基礎を学びさまざまな動物の生き残り戦略を楽しみながら知ることができる本。
- (6) 推薦者：安井行雄 (農学部)

- (1) チェルシー・コナボイ (著)、竹内薫 (訳) (2025) 『奇跡の母親脳』新潮社、ISBN: 4106110954
- (2) 学問領域：神経科学、発達心理学、周産期医学
- (3) キーワード：母親脳、神経可塑性、愛着、ホルモン、育児
- (4) 難易度 2
- (5) 出産や育児は女性の「本能」とされがちですが、近年の神経科学は、母親の脳が経験によって変化することを示しています。妊娠・出産・育児を通じた脳の変化をわかりやすく解説します。
- (6) 推薦者：加藤育子 (医学部)

- (1) 平野 翔大 (2023) 『ポストイクメンの男性育児—妊娠初期から始まる育業のススメ』中央公論新社、ISBN: 4121507916
- (2) 学問領域：社会学、家族社会学、ジェンダー研究
- (3) キーワード：男性育児、父親役割、育児、家族
- (4) 難易度 1
- (5) 近年は男性の育児参加が重視されています。本書は、妊娠期からの父親の関わりを提案し、男女の役割分担がこれまでどのように形成されてきたのか、それがどのように変化しているのかを考えるきっかけを与えてくれます。
- (6) 推薦者：加藤育子 (医学部)

- (1) ダフナ・ジョエル、ルバ・ヴィハンスキ（著）、鍛原多恵子（訳）（2021）
『ジェンダーと脳—性別を超える脳の多様性』紀伊國屋書店、ISBN：4314011858
- (2) 学問領域：神経科学、ジェンダー研究、心理学
- (3) キーワード：性差、脳の多様性、ジェンダー、モザイク脳
- (4) 難易度 3
- (5) 「男性脳」「女性脳」という考え方に対し、本書は脳の性差を批判的に検討します。人間の脳は単純に二分できず、多様な特徴の組み合わせであることを示します。生物学と社会の関係を考え、「男と女」という枠組みを問い直す視点を与えてくれます。
- (6) 推薦者：加藤育子（医学部）

- (1) 加藤秀一（2025）『はじめてのジェンダー論（改訂版）』有斐閣、ISBN：978-4-641-15141-3/ebook
- (2) 学問領域：ジェンダー論
- (3) キーワード：ジェンダー、二元論、規範
- (4) 難易度 2
- (5) ジェンダー論の難しい部分を安易に簡略化せず、しかし同時にわかりやすく書いた入門書。文献の情報も多数掲載されている。9章と10章は性暴力について書かれているため、読みたくない人は読まなくてよい。
- (6) 推薦者：和田千寛（ダイバーシティ推進室）

- (1) 星野俊樹（2025）『とびこえる教室：フェミニズムと出会った僕が子どもたちと考えた「ふつう」』時事通信社、ISBN: 4788720493
- (2) 学問領域：ジェンダー論、男性学・男性性研究
- (3) キーワード：男性性、教育、フェミニズム、規範
- (4) 難易度 1
- (5) 男性規範に苦しめられた著者が、フェミニズムに出会って「解放」される過程がよくわかる。個人的で些末に見えることが、どうして政治的で社会的に重要な課題であるのか、読みやすく、分かりやすく記されている。
- (6) 推薦者：和田千寛（ダイバーシティ推進室）

- (1) 竹村和子 (2024) 『フェミニズム』 岩波書店、ISBN: 4006004788
- (2) 学問領域： フェミニズム理論、ジェンダー論、現代思想
- (3) キーワード： フェミニズム、ジェンダー
- (4) 難易度 3
- (5) フェミニズムとは何か、根本的なことから分かる良書。フェミニズムのいう「女」とは誰なのか、「女」の経験をまとめて語れるのか、といったフェミニズムに内在する難しさを丁寧に解説している。
- (6) 推薦者： 和田千寛 (ダイバーシティ推進室)

- (1) 風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子 (2018)
『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』 法律文化社、ISBN : 4589039702
- (2) 学問領域：セクシュアリティ・スタディーズ
- (3) キーワード：セクシュアリティ
- (4) 難易度 1
- (5) 多様な性のあり方を歴史・社会・文化の視点から丁寧に解き明かす一冊。クィア理論や性的マイノリティの権利獲得の歴史を通して、現代社会の「性」を総合的に学べる入門書です。
- (6) 推薦者： 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 山本順一編 (2013) 『新しい時代の図書館情報学』 有斐閣、ISBN : 978464122083 /ebook
- (2) 学問領域：図書館情報学
- (3) キーワード：図書館
- (4) 難易度 2
- (5) 図書館の意義と役割、制度等を分かりやすくまとめた入門的テキストである。電子書籍化に代表される高度情報社会において、図書館に何ができるのだろうか。本著を読んで、普段自分が使っている図書館について考察してほしい。
- (6) 推薦者： 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 広瀬大介 (2022) 『もったきわめる! 1 曲 1 冊シリーズ 3 ワーグナー: 《トリスタンとイゾルデ》』音楽之友社、ISBN : 4276357039
- (2) 学問領域 : 音楽学、舞台芸術、オペラ研究
- (3) キーワード : トリスタンとイゾルデ、リヒャルト・ワーグナー、楽劇、恋愛、悲劇
- (4) 難易度 2
- (5) 楽劇におけるトリスタンとイゾルデがどのように構成されているのかを、文学的背景や音楽的進行に言及しながら解説した書である。ワーグナーが追求した音楽理念について理解を深めることができる。
- (6) 推薦者 : 寺島弘城 (教育学部)

- (1) ドニゼッティ (著)、坂本鉄男 (訳) (2011) 『オペラ対訳ライブラリー 愛の妙薬』音楽之友社、ISBN : 9784276355736
- (2) 学問領域 : 音楽学、舞台芸術、オペラ研究
- (3) キーワード : 愛の妙薬、ガエターノ・ドニゼッティ、オペラ、恋愛、喜劇
- (4) 難易度 1
- (5) イタリア語と日本語訳が併記されたオペラのリブレット (台本) である。ストーリーとともに、作曲者や作品背景などの詳細な情報を、解説を通して体系的かつ容易に理解することができる。
- (6) 推薦者 : 寺島弘城 (教育学部)

- (1) 高橋秀樹 (2004) 『中世の家と性 (日本史リブレット)』山川出版社、ISBN : 978-4634542006
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 家族史、生活史、性差
- (4) 難易度 1
- (5) 日本中世の家族史・生活史について、女性史・男性史、あるいは性差の視点から、これまでに明らかになっている基本的な情報や歴史認識についてわかりやすく論じている。基本的な知識を身につけるのに適当な良書である。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 清水克行 (2015) 『耳鼻削ぎの日本史』 洋泉社、ISBN : 978-4-8003-0670-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 身体刑、習俗、性差、人間観
- (4) 難易度 3
- (5) 前近代の日本列島で行われていた耳鼻削ぎの身体刑は、鎌倉時代の地頭の非法行為として高校の日本史教科書にも登場するなど、よく知られているところである。しかし、耳鼻削ぎの習俗は、おもに女性に対して行われた身体刑であることはあまり知られていない。本書は、その習俗が存在した歴史的意味を理解し、いまでも現実に世界で行われているこうした習俗について、考えるきっかけになるであろう。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 網野善彦 (2005) 『中世の非人と遊女』 講談社学術文庫、ISBN : 978-4-06-159694-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 心性、女性、差別、人間観、社会観
- (4) 難易度 3
- (5) 日本の歴史学が農業、とくに水田を軸とした社会の分析に力点を注いできたことに対し批判的な立場をとりつつ、職人などの非農業民や女性のあり方を考察してその歴史的立場について論じている。とくに、日本列島における「差別」意識の歴史的あり方やその変化のあり方について踏み込んだ検討をしておき、そうした問題について理解を深めるきっかけになるだろう。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 渡辺京二 (2005) 『逝きし世の面影』 平凡社、ISBN : 9784582765526 /ebook
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 異文化理解 ジャポニズム オリエンタリズム 多様性
- (4) 難易度 2
- (5) 本書は、19世紀後半に日本列島を訪れた諸外国人がふれた当時の日本列島の景観、風習、文化についての記録と、それらに対する当時の諸外国人の目線からの評価、感想を集大成したものである。多くの外国人が、はじめて日本文化に接したときの衝撃がありありと描かれている。性差に対する考え方にも注目したい。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) ルイス・フロイス著／岡田章雄訳注（1991）『ヨーロッパ文化と日本文化』岩波文庫、ISBN：9784003345917
- (2) 学問領域：歴史学（日本史・西洋史）
- (3) キーワード：比較文化史（ヨーロッパ文化と日本文化）、心性、女性、男性、人間観、社会観
- (4) 難易度 3
- (5) 16世紀後半の戦国時代に日本にやってきたポルトガル人宣教師が、実際に戦国時代の日本列島を歩き回って得た日本文化の見聞録とヨーロッパ文化との比較論（邦訳版）である。外国人の客観的な目を見た戦国時代の日本文化に対する新鮮な驚きと同時期のヨーロッパ文化との比較論は、現代人にも大きな驚きを与え、男女の問題のみならず社会のあり方について深く考えさせられる。
- (6) 推薦者：守田逸人（教育学部）